

令和2年度 学校自己評価システムシート(県立杉戸高等学校)

目指す学校像	一人ひとりの能力を確実に伸ばし、夢の実現を支援する学校
--------	-----------------------------

重点目標	1 進取の気概を持ち、社会に貢献できる人材を育成する 2 総合的な知の習得を行う 3 地域との交流を深めた教育活動を行う
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 7名
	事務局(教職員) 10名
	生徒 2名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標				年度評価(2月1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	昨年度に作成したブランドデザインの柱の一つ「対話を取り入れた授業の展開」は、浸透しつつある。今年度は、いかに「深い学び」のある「主体的・対話的」授業を展開するか、いかにあきらめさせない進路実現につなげるか、すべての教育活動で取り組んでいく必要がある。	○進取の気概を育成するために、授業を改善する	①「深い学び」を具現する授業デザイン、タブレットの活用、「総合的な探究の時間」における探究のプロセスの充実を図る。 ②各教科及び総合的な探究の時間で「目標達成度評価規準」(ルーブリック表)を活用し、学習評価を改善する。 ③早期から計画的に進路意識を高めて行動できるよう支援する。	①授業アンケートで各教科等の授業満足度が8割を上回ったか。 ②学校生活アンケートで「主体的に学習に取り組んでいるか」の回答が8割を上回ったか。 ③生徒アンケートで第一志望への合格が6割を上回るか。	評価項目の達成状況はほぼ達成できた。 ①授業アンケートで授業満足度の肯定的回答が92.6%(各教科平均値 12月実施)。生徒アンケートで授業中対話の機会設定の肯定的回答が77.1%(12月実施) ②生徒アンケートで「主体的に学習に取り組んでいるか」の肯定的回答が87.5%(12月実施)。③卒業時アンケートで第1志望への合格は8割6分。(3月実施)	A	コロナ禍で「対話を取り入れた授業の展開」が昨年度より後退したように思われたが、後半実施できた。タブレットを活用した教育活動は日常的になっている。ルーブリック表の活用は、次年度のBYODの環境下で浸透させていきたい。進路について保護者から情報を求める声が多い。保護者にどのようにして伝えていくか、情報伝達の方法を工夫していく。
2	昨年度から始まった「総合的な探究の時間」は、先進事例を取り入れ、計画的、組織的に実施することができているが、生徒によって温度差があるのも事実である。生徒の意欲や達成感を高めるプログラムを考えていく必要がある。 また、学校行事等で本校で身に付けさせたい5つの力を意識させていく。	○総合的な知を育成するために、学んだことが活かせる教育活動を展開する	①「総合的な探究の時間」のプログラムの研究を行い、他教科との連鎖を深める。 ②新型コロナウイルス感染症に係る学校休業中期間、期間後においてもClassroom等を利用した情報共有や課題提出を推進し、協働的な学びや個別最適化した学びを実現する。 ③生徒自己評価ポートフォリオを整備し、学校行事等において身に付けさせたい力を意識させ、ポートフォリオとして蓄積させる。	①教員対象の研修会を実施し、教科においても「探究」のサイクルを意識し、効果的な方法で実践できたか。 ②学校生活アンケートでClassroom等の活用により成績が向上し、授業の理解が深まった生徒数が増えたか。 ③学校生活アンケートで「学校行事に積極的に取り組んでいるか」の回答が8割を上回ったか。	評価項目の達成状況は、おおむね達成できた。 ①「探究」の校内研修会はコロナ禍で実施できず。②生徒アンケートで「ICT活用で成績が向上した」の肯定的回答は56.9%、「授業の理解が深まった」の肯定的回答は73.8%(12月実施)。同年7月と比べて増加した。③生徒アンケートで「学校行事に主体的に参加した」の肯定的回答が89.5%(12月実施)。昨年度と比べて増加した。	B	「総合的な探究の時間」は、探究部を中心にして計画的、組織的に実施することができている。学年を越えた合同発表会ができたことは、生徒の表現力を鍛えるいい機会となった。杉戸町との連携を深めていく必要がある。ICT活用を学力向上につなげていくことが課題である。学校行事については、9割の生徒が主体的に参加している。感染防止対策を計画的に入念に行った修学旅行を成功させた2学年において特に自己評価の高さがうかがえた。
3	地域に貢献し、地域から学ぶ姿勢が、本校の生徒に身に付けさせたい5つの力の育成につながることを改めて明確にしていく。 2年目となる「総合的な探究の時間」については、生徒自身が、地域の課題について新しい「問い」や「気づき」を生み出せるように取り組んでいく。 また、生徒募集において、本校の魅力を地元だけではなく広範囲に広報していく必要がある。	○社会への貢献力を育成するために、積極的に地域と交流する	①「総合的な探究の時間」で地域に根差した探究活動を実践する。 ②地域のニーズに応え、お互いの教育活動とつなげていくような活動を実践する。 ③生徒募集活動において「杉戸高校」の良さを地元だけではなく広範囲にアピールできる戦略を練り、実践する。	①地域と連携した探究活動が実施できたか。 ②交流等に参加した生徒の合計数が全校生徒数を上回るか。 ③本校の良さを効果的に広報できたか。全ての部活動がホームページの更新を年3回以上行うことができたか。	評価項目の達成状況は、おおむね達成できた。 ①地域の課題についての学年を越えた探究活動Bの合同発表会を実施することができた。町役場の方の参加もあった。②地域との交流等に参加した生徒の合計数は428人(12月現在)。夏季休業中の交流がコロナ禍で中止となり残念であった。③万全の感染防止対策を行って10月に実施した体育祭が、新聞2紙に掲載された。小高交流事業を行ったダンス部の記事及び杉戸町の町長表敬訪問も新聞に掲載された。	B	杉戸第二小学校との交流事業は、コロナ禍ではあったが、小学校と連絡を取り合いながら無事に実施することができた。小学生の輝く目を見て自らの主体性、共感性、夢の実現に向ける力を育むことができたものと思われる。新聞社への広報活動を行い、掲載が叶った。杉戸町の広報誌にも掲載された。全ての部活動のホームページの更新は、目標達成とはいかなかった。次年度、継続的に呼びかけていく。

学校関係者評価	
実施日(令和3年2月10日)	
<ul style="list-style-type: none"> ・教員が積極的にICTを活用し、使用が日常化している。働き方改革につなげてほしい。・子供は部活もなかなかできない状況、進路等での不安、悩みもある。・指定校推薦が増えている。2年後、自分の子が受験するときにどうなっていくか気になる。・保護者の要望に応えることも必要であるが生徒自身が自分のこととして進路に向き合う力を育成することが大切である。・(授業見学後)プロジェクター、タブレット、ワークシート、デジタル教科書等の活用がなされ、生徒の学習意欲をととも感じた。授業準備は大変な時間を要すると思うが、共有することにより財産になると感じた。全体的に安心して授業で答える、発表できる様子から学校の雰囲気伝わってくる。 ・「総合的な学習の時間」が実践できていることは成果である。教職員が「探究」の時間を意識して各教科の授業を実践することで、生徒に多様性や深まりが期待できるのではないか。異学年の発表は、表現力育成や他者と学び合う活動として良い取組である。・探究活動を通して、「杉戸はこういう町だ」と自信を持って言える特色を見つけ出してほしい。・ICTは学びのためのツールである。学力向上につながる使い方を身に付けさせる方策が望まれる。・コロナ禍の中、学校行事への主体的参加の肯定的回答が約9割は、成果のある取組として評価できる。・受験生を持つ親として、子供がコロナ禍の中で勉強(自習)できる場所として、学校があってよかった。 ・コロナ禍のため、交流を限定的にせざるを得ない中で、感染症対策を施しながら、できる範囲で交流を実践したのは成果である。小学校との交流の定着が望まれる。また、感染症が落ち着いた後は、部活動などで中学校との交流をお願いしたい。・生徒会作成の動画は良かった。・今の生徒会役員は、活気があり、かなり頑張っている。今後も期待している。・文化祭の代替行事はリモート会議で話し合ってきた。意見を伝え合うのは難しかったが、会えなくても繋がれる手段があることは心強かった。 	